

「いただきます」

2年生は今日の道徳で、「いただきます」という食事前の言葉を題材に、感謝について考える授業を展開した。感謝の表し方として、生徒からは「残さずきれいに食べること」「作ってくれた人に会ったら、ごちそうさまでしたということ」などの意見が出た。そこで、本校の栄養士が作った給食調理のビデオが流される。このビデオにはカレーライスができるまでの過程が収められている。

6時50分、野菜が届く。すぐに野菜の下処理をする。じゃがいもの皮むき器はあるものの、350食を作るのはすごく手間がかかる作業だ。玉ねぎも甘味を出すためにあめ色になるまで30分間ほど炒める。ルーは市販のものではなく、バターや小麦粉、カレー粉などを使った手作り。大きな鍋に豚肉を入れて炒め、にんじんなどの野菜を加える。そこに、事前に準備していた鶏がらスープを入れ、煮込んだらじゃがいもを加える。先日、1年生が行った飯盒炊さんのカレーとは違い、かなり手が込んでいる。さらに、ごはんやサラダなども用意する。サラダは生のものではなく、一度茹でて提供する。そして、時間に合わせて完成させる。給食を調理している皆さんの苦勞がよく分かるビデオだ。これを見た生徒からは、感謝の気持ちとともに、「おいしそう」「お腹空いてきた」といった言葉が聞かれた。

食事の前に言う「いただきます」の言葉、「いただく」は「もらう」の謙讓語である。謙讓語は相手より一步下がった立場で使う敬語なので、その言葉には感謝の気持ちが込められていると解釈できるだろう。その感謝とは何か。一つ目は、食事に携わってくれた方々への感謝である。野菜を作ってくれた方、魚を獲ってくれた方、それを輸送してくれた方、料理を作ってくれた方、配膳をしてくれた方など、その食事に携わってくれた方々へ感謝の心を表している。その一つでも欠けていれば、私たちの手元には届かない。二つ目は、食材への感謝である。肉や魚はもちろんのこと、野菜や果物にも命があると考え、「私たちはかけがえのない命をいただいて生きている」と、それぞれの食材に対して感謝する気持ちを大切にしたい。

終わりに、感謝の気持ちをどう伝えるかを考え、発表して、授業を終えた。

11月30日 校長 鈴木 幸雄

◆問題  $\frac{1}{6}$  より大きく  $\frac{1}{2}$  より小さい分数で、分子と分母の和が50の、約分できない分数はいくつありますか。